

熊救協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>



山茶花

【天草園】 ~散歩中にゲット! 9.1kgのソデイカ~



今年の6月19日、園から直線距離で200m程の海岸で、散歩を日課とされている松村氏が、約1.5m・9.1kgのソデイカを、海岸から約1m、水深約50cm程の遠浅の海を泳いでいたところを、素手で捕獲されています。

地域でもたいへん珍しいイカで、数年前に一度近くの湾内で捕獲されている他は確認されていないそうです。地域の漁業者の話では、「従来沖縄近海の温暖な海に生息しているが、最近の地球温暖化により海水温が上昇し、天草近海でも見られるようになったのでは・・・」とのこと。味的には、甘みが強くイカ類の中で最も美味で高級とされているアオリイカ(水イカ)と似た感じがあり、身の肉厚は2cm~2.5cm程ありました。

松村氏は、自由時間を利用しての散歩が毎日の日課で、潮に合わせて海岸へ散歩され、今までも4kg程のブリや1kg程のヤズ、1.5kg程のボラやタコ等色々な魚を捕獲されており、天草園の特色である自然環境を十分に活かした散歩を楽しんでいらっしゃいます。

【菊池園】 ~看護実習始めました! ~



今年の9月から地域の病院で看護助手として実習を行っています。最初は戸惑ってばかりで、仕事が手につかない時がありましたが、日がたつにつれ少しずつ以前の勤がもどってきました。今は看護助手を行っています。将来は看護業務を行ない、一人でも多くの患者さんとふれあい、治療のお手伝いができればと思っています。



(入所時は髪は茶髪で、服装もだらしない格好でしたが、施設生活を送り、他の入所者とふれあい、行事、作業に積極的に参加し、施設の自治会役員に選ばれるほどになり、皆さんから好印象をもってもらえるようになりました。看護実習は本人が看護師の資格を持っており、再び看護師として働きたいという強い要望があり実現することができました。自立生活までには幾多の問題解決も必要としますが、本人の頑張りがあれば実現可能になると信じています。夢がかんうよう、他入所者、職員もあたたかく見守っています。)

【真和館】 ~おいしい野菜をつくろう! ~



平成20年6月に開園した一坪農園も2年半を迎えることができました。これまで、入所者の皆さんが思い思いの野菜を植えて、「おいしく育ちますように!」という気持ちを込めて育ててきました。しかし、開園してしばらくは、思うように野菜が育たないこともあり悪戦苦闘していましたが、今年の6月からは収穫した野菜を施設の食事で使用していただけることになり、農園メンバーにも張り合いが出てきました。現在は、白菜、チンゲン菜、キャベツなど季節の野菜を育てており、立派に育って食事に出てくる日を楽しみにしています。



熊救協ホームページ <http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

熊救協2009 No.15 編集後記



2009年4月1日より民間委託になり、新たな職員でスタートしました。私も特別養護老人ホームより移動となり、救護施設は初めての体験で何もかもが不安の中、熊救協調査・研究委員会として参加させて頂き半年が経過しました。とても心強く感謝いたしております。これからも皆様方との交流を深め勉強させて頂ければと思っています。よろしくお祈り致します。
《熊救協調研委員: 漣 和美(千草寮)》

編集: 熊本県救護施設協議会
調査・研究委員会
発行: 熊本県救護施設協議会

事務局: 〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072
真和館 Tel (096)279-1121
Fax (096)279-1122

【ご挨拶】

熊本県救護施設協議会副会長 永山 恵一



師走の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から熊救協の事業推進につきましては、ご指導ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今年も残り僅かとなりました。この時期になると毎年思うのが、この1年の反省であります。今年中にやるべきこと、今年こそはと思っていた課題をまた先送りしてしまいそうな状況です。最近、年取ったせいか、行動力が鈍ったような気がします。役所勤めしていた頃は町民からの苦情や要望があった場合は、素早く現場に行き顔を合わせて対応するように心がけていたものです。

施設内での利用者の皆さんの施設設備などに対する苦情、要望については、その場所に行き、利用されている方々の声を聴き解決することが大切だと思っています。

全救協で推進されている居宅生活訓練事業、保護施設通所事業などの地域生活移行支援、これらを推進するための基礎となる個別支援計画書の作成、活用などについて、救護施設の所在地域の環境、立地条件によっては、なかなか取り組めないのが現状ではないかと思えます。

しかし、「救護施設の機能強化に向けての指針」にあるように地域生活移行支援及び個別支援計画書作成など重要なものであり、積極的に取り組む必要があると思えます。最初から完全なものでなくても、その施設、その地域に合ったもの、事業基準に満たなくても1人、2人からでも施設の単独事業として取り組むべきではないかと考えております。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の、為さぬなりけり」仕事をする上で、やれば必ずできるとの思いがあれば何事も達成できる。「為せば成る」と先ずは行動に移し、道を拓くことが大切であります。年越ししそうな課題も年度末までは解決できるように、行動に移したいものです。 末尾になりましたが、救護施設職員の皆様のますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げますと共に、希望に輝く良い年を迎えられますよう併せてご祈念申し上げます。

内部研修-報告 真和館編

真和館QCサークルは3年目を迎えました。ほとんどの職員がQC活動未経験だったため、外部研修への参加や、講師の方をお招きしての内部研修等を開催しながらQCについて学んできました。これまでに、2回の内部発表大会を開催し、業務の改善に取り組んでまいりました。

これまでの取り組みとしては、介護班では排泄確認や転倒防止対策について、また、医務班では服薬管理について、事務班では入所手続きの効率化、調理班では野菜の残食削減や配膳時間の遅れを無くすことなどをテーマに取り上げ活動いたしました。その結果、業務内容の改善が出来、職員の意識改革につながりました。そして、今年の8月に4つのチームを結成し、第3回QCサークル活動を始動し、現在活動中です。

QC活動の目的は、業務の課題・問題などの改善に取り組んでいくことによって、課題・問題を改善できる人材を育成することです。これからも、その目的に向けて、職員で力を合わせ、QC活動に取り組んでいきたいと思えます。



熊救協研修委員会 報告

研修委員会では、年2回の職員研修会を実施しております。

第1回熊救協職員研修会(H21.6.18)

場所:阿蘇郡西原村構造改善センター

「**救護施設職員の心構えと福祉QC等の取り組みについて**」をテーマに、熊本県救護施設協議会藤本会長に講師をお願いいたしました。

現場職員が、自分の業務の中から改善すべき課題を自ら見つけ改善することにより、従事する職員の資質の向上を図ることが重要となる。そのためには、福祉QC活動等を通じて課題を明確にすることにより意識改革を図り、専門職としての高い知識の向上・資格取得・各種研修への積極的な参加等により職員の能力開発につながることや、松下幸之助流の生き方の公式等、貴重な講和をいただきました。

午後からは、救護施設職員32名の方による職種別グループ討議を実施し、各施設から提出された課題をもとにして意見交換が行われました。



第2回熊救協職員研修会(H21.10.29)

場所:みゆきの里「和楽」

「**精神障がい者について**」をテーマに、益城病院の松永医師に講話をお願いしました。

精神症状がみられる際の対応の心得(幻覚や妄想は否定しない・うつ状態時は励まさない・人格障害はチームで対応・薬物依存症は増加傾向・認知症が進行しない為には一人にしない・向精神薬の副作用)等について、具体的にわかりやすく説明していただきました。

午後からは、「**刑余者(罪を犯した人)の施設生活支援について**」をテーマに、NPO法人長崎県地域生活定着支援センター相談員の伊豆丸剛史様に講話をお願いしました。

地域生活定着支援センターとは、罪を犯した障がい者等の生きづらさ・困窮を地域社会の中で包み込み、温かな地域生活が実現出来るよう矯正・保護・福祉サービス事業等をつなぐ、いわば「架け橋」の役割を担う事業であるとのこと。

罪を犯した障がい者は、出所後、家族との関係性の崩壊・破壊、居場所の喪失、人間不信・孤独等、様々な問題により再犯を繰り返してしまう可能性が高いとのことでした。

講話を通して、このように生きる力が弱い刑余者は「福祉」の力で支えていく必要性があり、今後更に救護施設もニーズに応じたその役割を果たしていかなければならず、救護施設の特徴であるセーフティ・ネット機能の重要性を改めて再認識いたしました。



各施設トピックス

【野坂の浦荘】 ~楽しかった秋の旅行~



利用者の方が、行事の中で一番楽しみにされている秋の旅行に行ってきました。

日帰り、県内一泊、県外一泊と分けて利用者の方に希望をとり参加されます。今年は、日帰り(津奈木温泉、出水温泉)、県内一泊(阿蘇方面) 県外一泊(鹿児島方面)に行きました。

私も利用者の方と一緒に阿蘇旅行に行きました。カドリードミニオン(旧くま牧場)では、子グマやリスザルを抱き記念撮影をしたり、テレビ番組でおなじみチンパンジーのパン君のショーを見ました。近くで見る動物に最初は緊張した様子でしたが、可愛らしい仕草にだんだん顔がほころび声を出して喜んでいました。思い出に残る旅行となり帰荘後も、友人に「子グマを抱いてきた」と話をする姿が見られました。



【しらがね寮】 ~福祉スポーツ大会開催される~



来る10月20日に秋空の晴天の中しらがね寮のグラウンドに於いて**福祉スポーツ大会**が開催されました。福祉スポーツ大会は、毎年社会福祉協議会の主催で開催されているもので、出場団体は、身体障害者協議会、母子寡婦福祉協議会、老人クラブ連合会、しらがね寮となっています。

皆さん毎年楽しみにされているようで、開会前の早朝より続々集まって来られていました。中でもかわいい保育所の園児の遊戯には大きな歓声と限りない拍手が送られていました。

また、あなたが主役と題して行われた飴食い競争では、顔中真っ白に小麦粉を付け観客の皆様から大きな歓声と拍手が送られていました。昼食の時間にはのど自慢が開催され自慢の歌声を披露されていました。

その他ルー、綱引き、パン食い競争などの競技が行われ一日を楽しんでおられました。



【友愛会银杏寮】 ~味千ラーメン出前隊~



11月18日、味千ラーメン(重光産業)様より「**味千ラーメン出前隊**」と称し高橋隊長をはじめ3名のスタッフが来寮。手際よく、本場の熊本豚骨ラーメンを振る舞っていただきました。

今年は、新型インフルエンザが地域で流行しており、その影響で、9月以降は旅行等、外出の行事をすべて自粛したため、施設内での催しを計画。映写会やカラオケ大会と共に「食」を通じた行事として、味千ラーメン様にご相談したところ、快く引き受けて頂きました。

出前隊が来寮され、準備にかかられた後、テント周辺では豚骨スープの香りが漂い皆待ちきれない様子。開店後、楽しみにされていた利用者が「うまかばい!」と味千ラーメンを堪能されていました。「さすが本場のラーメン!」「毎週でも...」と絶賛の声が多く寄せられました。また出前隊の御好意で職員もご馳走になりました。

最後に出前隊の方々にお礼を述べ、記念写真の撮影を行い「食欲の秋」にふさわしい良い思い出づくりができました。



【千草寮】 ~地域交流をありがとう!~



東泉会ひかわの里主催による、地域交流の一環としてゴルフ大会が八代市東陽町総合グラウンドで、開催され20数チームが参加。午前8時から熱い戦いが繰り広げられ、千草寮も今回のような大会は初めての体験で、最初は緊張と不安の表情は隠せず受け身の状態でしたが、次第に積極的な行動へと変化し、堅い表情も一変し地域の方々とも馴染まれ、笑顔と笑い声が見られ皆さん満足された様子。

次回は「**もっと、もっと練習して参加したい**」と、意欲を燃やしておられた。

